



上 《聚落》[山形県東田川郡朝日村田麦俣]1966年 下 五箇山にて 撮影年不詳

没後30年

# 向井潤吉 心の交流記

民家を訪ね、描く楽しみ



2025 10.1(水) — 2026 3.15(日) 世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

開館時間 | 10:00~18:00(最終入館は17:30まで)

休館日 | 毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館)、年末年始(2025年12月29日~2026年1月3日)、10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月24日(月・振休)、1月12日(月・祝)、2月23日(月・祝)は開館、10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)、1月13日(火)、2月24日(火)は休館

観覧料 | 一般220円(180円)、大高生170円(130円)、65歳以上/中小生110円(90円) \*障害者の方は110円(90円)、ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。証明書をご提示のうえ、お申し出ください。

\* ( )内は20名以上の団体料金 \* 世田谷区内在住・在学の小・中学生は土、日、祝・休日は無料

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL.03-5450-9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

没後30年

# 向井潤吉 心の交流記

## 民家を訪ね、描く楽しみ

豊かな湧き水があるとみえて、家の裏

で家鴨と鶏が啼き騒いでいたが、やがて

穏やかな顔をした老婆と大きい犬が

出てきて、私の仕事を確かめると家の

ほうへ引き返して消えた。家鴨と鶏の

声もいつの間にか止んで、また元の閑散

とした空気と環境に戻った。

向井潤吉「日本の民家」保育社、1979年より



《水辺の曲り家》  
[岩手県稗貫郡大迫町内川目]1976年

春秋の豊麗で艶やかな季節よりも、

私はこの沈々とした寒さの頃の大原が

最も好ましく思っている。「中略」仕事が

終わって電気炬燵に入って一酌すれば、

「民家の画家」と呼ばれた向井潤吉(1901-1995)。草屋根民家を描き、

全国各地を巡るなかで、向井はそれぞれの土地の風物や人々との

忘れたい出会いを積み重ねていきました。没後30年を記念して

開催する本展では、当館が所蔵する民家を主題とした油彩作品を中心に、

現地の人々との交流を示す水彩作品や、道中の出来事や食の楽しみなどを

綴った紀行文もあわせてご紹介し、向井が半生を捧げた旅の軌跡を辿ります。

まずい煮めもうまくなるのである。そして

て京の町の燈がそぞろに恋しくなる。

向井潤吉「日本の民家」保育社、1979年より



《大原冬に入る》  
[京都市京都市左京区大原]1966年

昔は北海道との交易が盛んで賑わった

と聞いたが、青函連絡船が運行してから



《旅館内庭》  
[青森県西津軽郡鮎川町]1962年頃

以後、すっかりとさびれた五能線沿いの

町の一つ。夕食のあと町の中を彷徨した

が、おでんの燈もない静かさで、遠く海

鳴りが響いてくるばかりであった。

向井潤吉「日本の民家」保育社、1979年より

この田麦俣の野良着もわざと着て

もらったが、やはりこのくらいの年齢に

ならなければピタリとした格好になら

ないものである。それとともに顔も姿も

風土そのものである。

向井潤吉「素描集」保育社、1981年より



《田麦俣の女》1960年代

## 世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016  
東京都世田谷区弦巻2-5-1  
TEL.03-5450-9581  
<http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

[交通案内]  
◎東急田園都市線「駒沢大学」駅西口より徒歩10分  
◎東急世田谷線「松陰神社前」駅より徒歩17分  
◎東急バス(渋05)渋谷駅～弦巻営業所「駒沢中学校」下車徒歩3分



撮影 上野野実

Instagram  
日々更新しています!



画家の暮らしの息遣いを今に伝える館内や、四季折々に豊かな表情を見せる庭など、向井館の日々の様子をご紹介しますほか、ミュージアムグッズなどの情報もお届けしています。



### 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

〒158-0083  
東京都世田谷区奥沢5-38-13  
TEL.03-5483-3836  
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

宮本三郎 都市と自然  
—それぞれの光—  
2025.11.1|土|—2026.3.15|日|  
※館内整備のため2025年9月8日(月)～10月31日(金)休館いたします。



©宮本和範

### 世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066  
東京都世田谷区成城2-22-17  
TEL.03-3416-1202  
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>

清川泰次 デザインの仕事—生活に息づく美  
2025.10.1|水|—2026.3.15|日|



©宮本和範

## 世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075  
東京都世田谷区砧公園1-2  
TEL.03-3415-6011(代表)  
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

同時開催展

ミュージアムコレクション

自然と魂 利根山光人の旅 異文化にみた畏敬と創造 9.13|土|—11.9|日|

つぐ minä perhonen 11.22|土|—2026.2.1|日|

ミュージアムコレクション特別篇 開館40周年記念 世田美のあしあと —暮らしと美術のあいだで 2026.2.21|土|—4.12|日|

ミュージアムコレクションⅡ もうひとつの物語 —女性美術家たちの100年 7.26|土|—11.3|月・祝|

※ご入館に際しては感染症予防のため手指消毒にご協力ください。館内で十分な距離を保てない場合がありますので、他のお客様への配慮をお願いします。  
※展覧会の会期および内容が、急遽変更や中止になる場合もございます。会期中の最新情報は美術館ウェブサイト等でお知らせします。